

平成28年度 中部森林管理局国有林野等所在市町村長有志協議会連絡協議会 意見交換の概要

開催日時：平成28年11月21日（月） 13:30～15:30

開催場所：長野県松本市内

出席者：富山県南砺市長、長野県飯綱町長、小谷村長、上田市長、伊那市長、木曾町長、岐阜県高山市農政部長、下呂市長、中津川市長、愛知県設楽町長、以上10地区代表ほか9名出席

発言要旨	回答
<p>1 公益重視の管理経営の一層の推進について</p> <p>① 当該地の土石流災害から20年となる。国土保全対策については、県・市町村・他省庁との連携をお願いしたい。</p> <p>② 御嶽山噴火災害により被災した施設の撤去支援をお願いしたい。また、散在している遺留品の回収支援をお願いしたい。山小屋の水源である「二の池」が火山灰で埋まったため、その復旧についても支援願いたい。</p> <p>③ なだれ防止保安林において、樹木の間が広がったところがあり、雪崩が防げなくなっているように考える。その管理方法等について指導願いたい。</p> <p>④ 林道施設災害について、現形復旧ではない方法でも復旧できるよう検討して欲しい。</p>	<p>① 当該地の治山対策については、関係機関との調整を行って実施しており、災害時の初動対応として、局がチャーターするヘリコプターで関係自治体と合同で調査を行える体制を整えています。また、今後、被災地へ技術者を派遣して初動の災害対応が行えるような体制づくりを局内で検討しています。</p> <p>② 遺留品の回収については積極的に協力させていただきます。また、水源の確保については直接的な支援は難しいですが署でご相談に応じたいと考えます。</p> <p>③ なだれ防止保安林については、基本的には伐採できないこととなっていますが、機能の発揮が不十分な保安林であれば、保安林改良事業で林相改良ができるので、署にご相談をお願いします。</p> <p>④ 災害復旧事業は原形復旧を原則としていますが、被災のメカニズム、現地の状況により原形への復旧が困難、不適当な場合は最適な復旧工法を選定しているところです。近年の局所的な集中豪雨により被害も大きくなっており、現地に最適な工法で災害申請していただくように引き続き県等を指導していく考えです。</p>
<p>2 森林・林業の再生に向けた取組について</p> <p>① 当県には大きなバイオマス発電所ができたが、木材供給が厳しくなっている。市では小さい地域内で熱源として利用するため公共施設で薪とペレットの導入を進めている。C・D材の供給ルートを作っていきたい。</p> <p>② 薪ストーブ、ペレットストーブ、ペレットボイラーの普及を行っており、ペレット生産は今後増やす予定。ペレット、小水力、ゴミ発電により、市のCO2排出量を1/4に減らす考え。</p>	<p>① C、D材を含めた木材需要の拡大は重要な課題であり、国有林としても製材工場等との協定に基づくシステム販売を推進しているところです。</p> <p>また、国産材の調達ルートの確保は近隣県の民有林、国有林とも連携することが重要であることから、国有林からの供給が難しい地域においても、状況に応じて近隣県におけるC、D材の木材供給に係る情報提供を行う等、地域における供給ルートの構築に向けた支援に努める考えです。</p> <p>② 地域の資源を地域内で活用する取組について、国有林としても協力していきたいと考えます。</p>

発 言 要 旨	回 答
<p>③ ダム建設予定地(300ha)の立木の有効利用策として発電等を考えているが、助言等を願いたい。</p>	<p>③ 発電については、長期、安定的に木質バイオマスが供給できるのかについて事前に十分検討する必要があります。</p> <p>A材、B材はもちろんのこと、C材においても製紙用原料としてマテリアル利用がなされているため、搬出されるA材～D材は、基本的に建材等の資材として利用した後、ボードや紙等の利用を経て、最終段階では燃料として利用するカスケード利用が重要であると考えます。</p>
<p>3 有害鳥獣対策について</p> <p>① 野生鳥獣は広域移動することから、鳥獣害対策については、民国の連携や自治体間の連携が必要であり、市としても対応を行っていききたい。</p> <p>② シカ被害が増えている。南アルプスでの対策は県をまたいだ広域連携が必要。サル被害についても対策を検討中。</p> <p>③ サル、イノシシ、ツキノワグマの被害が多いため、対策について支援願いたい。</p> <p>④ 当市は松枯れの長野県最激害地で、市単も含め年間1億6千万円を支出。観光客が多いが、枯れた木が目立って景観上見苦しいことから、対応を検討願いたい。</p>	<p>① 獣害対策については、関係機関と協力して対策を進めており、引き続き自治体と情報を共有しながら対応していききたいと考えます。</p> <p>② 野生鳥獣の被害対策は、民有林や国有林、猟友会等の森林関係者だけではなく、農業関係者とも連携し、広域的に取り組むことが効果的です。農林水産省では、シカやサルによる被害対策として、鳥獣被害防止総合対策交付金のほか、「シカによる森林被害緊急対策事業」等により、複数市町村による広域的な取組を重点的に支援しており、活用をご検討ください。</p> <p>③ サル、イノシシ、ツキノワグマの被害対策として、農林水産省では、鳥獣被害防止総合対策交付金や森林整備事業等により防護柵等の鳥獣被害防止施設の設置、捕獲活動等への支援を実施しているところであり、活用をご検討ください。</p> <p>④ 当該市では、森林病虫害等防除事業による地上散布等を行っているところですが、事業の対象とならない区域でも被害が発生しているところ。現行の松くい虫対策事業の対象とならない松については、長野県の森林環境税を活用した取組等の検討をしていただくよう県に対して依頼しているところであり、当該市におかれても、ご検討ください。</p>
<p>4 国有林野の管理・利用について</p> <p>① 国有林を森林体験できるフィールドとして活用したい。</p> <p>施設設置（ビジターセンターの建設）に係る補助制度等を指導願いたい。</p> <p>② 国有林内のスキー場の経営が悪化しており、外資系資本が参入したいとなった時に、その際の対応を指導願いたい。</p> <p>③ 当市は温泉を抱える観光地であり、インバウンドの観光客も多い。国有林を観光目的に活用したいので協力をお願いする。</p>	<p>① フィールドの活用については、ご相談に応じたいと考えます。</p> <p>農村振興局の平成29年度予算案（概算決定）（農山漁村振興交付金のうち農泊推進対策）において、森林体験の実施に必要な施設整備等を支援可能とする考えであり、その活用をご検討ください。</p> <p>② 地元の皆様と情報交換しつつ、個別にご相談に応じたいと考えます。</p> <p>③ インバウンドの対応については、市町村単独ではなく市町村や県をまたぐなど、関係地域が一体となった取組が重要と考えています。農村振興局の予算の活用もご検討ください。</p>

発 言 要 旨	回 答
<p>④ トレイルランニング等国有林のフィールドを利用している。世界遺産、文化遺産等があるので、広域的なインバウンドの取組をしていきたい。</p>	<p>④ 国有林野の貸付については、観光施設等の活用要望に応じて、管理経営に支障のない範囲で積極的に対応してきているところです。トレイルランニングについては、安全対策をとった上で地域振興のために積極的にご活用ください。</p>
<p>5 その他について</p> <p>① 林地台帳を作成できるか苦慮しているので指導願いたい。</p> <p>② 公有林の森林認証を取得したことから、認証材の販売量拡大を期待している。認証材の普及への支援をお願いしたい。</p>	<p>① 昨年10月に配布した整備マニュアルに、林地台帳整備の標準的な方法を整理しているので、ご活用ください。また、整備に向けて不明な点等があれば県又は林野庁にご相談ください。</p> <p>② 森林認証取得促進のため、協議会の設置や認証取得に向けた合意形成、分別マニュアルの作成等にかかる経費を支援する補助事業を予算措置しているので、ご活用ください。 (新たな木材需要創出総合プロジェクトのうち地域材の安定供給対策のうち森林認証材普及促進対策)</p>